

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



今年の大同は春の訪れが早く、4月中旬には渾源県呉城村のアンズが満開に。

Contents

- 緑の地球ネットワーク第20回会員総会のご案内 P 2
- 4度目の認定が決まりました P 2
- その後の鍋帽山と金山寺 P 5
- 2014 黄土高原ワーキングツアー参加者募集 P 6

2014.5
157

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第20回会員総会のお知らせ

日中間のぎくしゃくした関係が長引くなか、GENの春のワーキングツアーは参加者が集まらず中止となるなど苦戦をしいられています。

この状況を嘆いてばかりではなにも変わりません。会員総会に参加して現状を知り、わたしたちひとりひとりになにかできるか考えてみませんか。

記念講演では京都を拠点に地球規模の問題を視野に入れ、グリーンコンシューマー活動など、持続可能で豊かな社会・生活を実現するための活動をしている「環境市民」の枚本育生さんにお話いただきます。

会員のみなさんには後日資料をお送りします。

【緑の地球ネットワーク
第20回会員総会】

○日時：6月14日（土）13時30分～16時40分

○記念講演：13時30分～15時『エコで豊かな社会をめざして～気候変動・エネルギー 国内外の先進事例から～』

◇講師：枚本育生さん（認定NPO法人

「環境市民」代表理事）

○会員総会：15時20分～16時40分

○場所：大阪市立総合生涯学習センター
第1研修室（大阪市北区梅田1-2-2-500 大阪駅前第2ビル5階 tel.06-

6345-5000 JR「大阪」駅／「北新地」駅、各線「梅田」駅下車）

* * * * *
【会員総会後の懇親会のお知らせ】

◆会場：咲くら 北新地本店

◆時間：17時～19時まで

◆参加費：4,200円

◆申込み：6月11日（水）までにGENまで。会員以外も参加できます。

4度目の認定が決まりました

緑の地球ネットワークへの寄付金は税控除の対象になります

緑の地球ネットワークが税制上の優遇を受ける認定NPO法人に認定されたのは2005年6月で、全国でも30番目でした。これまでの3回は国税庁長官による認定で、大阪国税局の審査を受けていましたが、2012年4月からの新制度では所轄庁（大阪市）による認定に変わりました。

昨年10月に大阪府に申請書を提出し、今年3月に2度にわたる調査を事務所で行いました。4月9日付けで認定が決まり、有効期間は2019年4月8日までです。

個人からの寄付金に対しては、所得

税から寄付金額の最大40%までの税額控除を受けることができます。確定申告が必要です。

大阪市民に対しては市民税の税控除も適用されます。法人による寄付金に対しては一般寄付金の損金算入限度額とは別に損金算入が認められます。

相続や遺贈による財産を申告期限までに寄付された場合には、相続税の対象から除外されます。

GENの場合寄付となるのは、緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円をひいた金額です。

いますぐできるGENへの協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）

一般会員 12,000円

家族会員（同居の家族2人目から） 6,000円

学生会員 3,000円

ジュニア会員（中学生以下） 1,000円

団体会員 12,000円

賛助会員 100,000円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。GENへの寄付は、寄付控除の対象となります。また、緑化基金、運営カンパの別を問わない使

途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。＊緑化基金の20%は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』
8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料無料）

■書き損じはがきを集めています
書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてています。

■未使用切手・古切手を集めています
普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

■外国コイン・商品券など回収中
使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたら

お送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

助成金が 決まりました

公益信託経団連自然保護基金の2014年度支援事業として緑の地球ネットワークの「多様性のある森林再生第6期（南天門自然植物園の建設と運営）」に3,568,000円の助成金が決まりました。

南天門自然植物園の運営に生かされます。

植物を見守ることを大切に

佐藤 俊一（GEN会員）

4月5日、梅原徹さんの案内で柏原市の大和川自然観察をおこない、16名が参加しました。さまざまな春の草花をたのしい解説とともに見てまわりました。

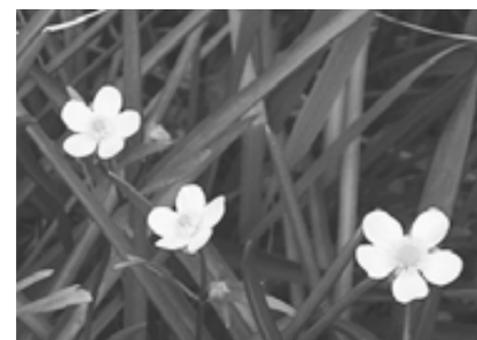
4月5日朝、JR柏原駅より近鉄道明寺線に乗り換えたときは土曜日もあってか乗客もまばらであった。その中でどうやらわたしと同じ目的のひとが柏原南駅に降り立ってすぐに線路わきの草のあいだを何やらさがしておられたのがその日の講師の梅原徹先生であった。

総勢16名の参加者が揃ったところで、さっそく梅原先生が手にとって説明していただいたのが「イヌノフグリ」であった。外来種の「オオイヌノフグリ」が栄えているのにたいし、絶滅危惧種になっているとのこと。名前の由来はその実が陰囊（フグリ）に似ており、さらにイヌという侮蔑をこめた意味をフグリの前につけ加えられている可哀そうな名の草である。

天候もまずまずでヒバリが大空にさえざるなか、大和川の堤防を歩いて行くのだが先生はひたすら下を向いて歩いておられる。時どき立ち止まってい

ろんな植物の名前や特徴など説明していただく。若いヤブカンゾウやカラシナ、タンポポ、ヘラオオバコなど結構食べられる野草が多いのに気づく。

「カラスノエンドウ」はよくみられる植物で子供の頃その莢をとって草笛にしたことを思い出した。「カラスノエンドウ」があれば「スズメノエンドウ」もあるのではないかと質問がでて、梅原先生はお昼に早速その両方を持ってきて違いの説明と、さらに「カスマグサ」を合わせて紹介いただいた。カスマとはカラスの「カ」とスズメの「ス」の間（マ）となり、なぜかエンドウといわずにクサとなっている。私ならさしずめ「ハトノエンドウ」と名付けたらろうが、命名者は二番煎じとなるのを避けたのだろうかと思ってしまう。



大和川の土手に咲くヒキノカサの花

特に興味をもったのは、「ホトケノザ」という草の花。通常虫に花粉を運んでもらうため花は開いている（開放花）が、媒介者がいない時に備え、「閉鎖花」といって花を開かないで自家受粉もする。これは確実に実になるが、種を遠くに運んでもらうことができないし、また近親結婚のような問題もある。しかし花を咲かせて蜜や多量の花粉を作るエネルギーもい



らない利点もあり、おなじ個体のなかで守りと攻めの両方の戦略をとるといふまさにリスクマネジメントをもっている植物があることに感心した。

大和川は河川管理のため堤防も毎年数回は草刈りをおこなうので、人工的に攪乱された環境のなか「クサボケ」や「ヒキノカサ」など低い丈の植物も育っている。とくにその日の目玉「ヒキノカサ」は大阪では八尾から瓜破までの大和川堤防の北斜面のしかもあまり他の植物が繁茂しない低地のみ限定して育つ地域限定の絶滅危惧種である。ちょうど黄色の花を咲かせていてよく目立った。

絶滅危惧種の植物を紹介いただいたが、絶滅を救う方法があるのかなと自問自答してみた。絶滅危惧種でもいろんな環境条件にあわせて育っているの、他に移植して増やしていくことも難しそう。今ある環境を保全するといっても外来種が侵入して在来種を圧倒するケースもあるし、あまり絶滅危惧種と騒ぎ立ててもかえって珍しいからと持ち去っていく輩が出てこないともかぎらない。容易に答えが出せない問題である。

いずれにしても植物は簡単に移動することができないので、いまある環境にあわせて健気にもしたたかに育っているのを見守るのが我われのできるのかなとそんな気づきを与えてくれた一日であった。

GENがYahoo！募金に登録されました

Yahoo!JAPANがおこなっているYahoo! ネット募金に4月からGENが登録されました。クレジットカードもしくはTポイントで、気軽にインターネットで寄付できるというものです。http://donation.yahoo.co.jp/detail/5009001/までアクセスしてみてください。

また、ブログをしている方は記事にして募金を呼びかけていただくようお願いします。facebook、twitterなどでの宣伝ももちろん大歓迎です。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



2014春 大同報告

今春 GEN のワーキングツアーは残念ながら参加者が集まらずに中止となりましたが、4月7日～12日の日程でイオンリテールワーカーズユニオン・サントリー労働組合のツアー（19名）と北京林業大学の留学生、鶴田博さんが大同を訪れました。



報告 来て見て知った 中国

浦崎 賢太郎（サントリー労働組合）

今回、黄土高原ワーキングセミナーに初めて参加させていただきました。中国の上陸も初めてで、反日デモなどの報道から先入観や不安がありました。しかし、帰国した今、行ってよかったですと心から思います。それは GEN の皆様が本気で中国での植林に向き合い、現地の方がたを巻き込みながら活動を展開し、それにより築き上げてきた信頼関係を肌身で感じる事ができたからです。

GEN の活動が展開される大同は石炭が産出されることから日本軍が侵攻し、炭鉱の接収を行っており、日本に対する反発は激しい土地であります。しかし、GEN に対する、中国の県幹部のもてなしの姿勢は格別なものでありました。また、現地の子どもたちが一糸乱れぬダンスを披露し、歓迎してくれました。この準備には相当な時間がかかったのではないかと思います。厳しい環境下でも本気でぶつかり、現地にもメ



リットが出るように工夫し地道に続けることさえできれば、厚い信頼関係を築き上げられると心から思いました。

一方で、子どもたちからは植林活動の重要性がしっかり根付いていることが確認できました。現地の環境に関する意識も高く、風力発電、メガソーラー発電、電気自動車、電気スクーターが普及していました。また、バスでの移動中、各地で植林が行われている様子を目にしました。ここまで意識や活動が醸成されてきた今、日本からこのよ

うな取り組みを続けなくてもよいのではないかと思う場面もありました。しかし、現地の方がたと協働で植林を行った際、苗を確実に活着させ、伸ばしていくために必要な手順が現地の方がたの間では理解されず、実践されていない例も見受けられた。また、過去植林した地域で様々な工夫をこらながらも立ち枯れている状況も見ましたが、GEN では科学的な根拠を基にした確実な方法の普及や、実験と検証を繰り返すことでより確率の高い植樹方法を模索していました。このような状況をふまえると、まだまだサポート活動が必要であると感じました。また来年も参加したいと思います。

報告 歩み寄る気持ちを大切に

藤原 尚子（イオンリテールワーカーズユニオン）

今回、GEN のみなさま、サントリー労働組合のみなさまと共に植樹活動に参加いたしました。

活動に参加した動機はイオンに入る前から思っていた「植樹がしたい！」という気持ちからでした。しかし、実際に参加し「木を植える」意味や、GEN の方がたが 22 年間行ってきた活動の意義、社会貢献について深く考え、中国と日本の歴史的な関係に触れ戦時の日本の行いを認識させられる機会になりました。

中国を訪れる前は現在の日中関係の

複雑さもあり、どのような 1 週間になるのか不安もありましたが、GEN の方がた、大同市の方がたとともに活動をしていく中でその不安は払拭されました。何事にも一番大切なことは、先入観にとらわれずにありのままを受け入れること、言葉は通じなくともさまざまな手段で個人の意思を疎通させてお互いが歩み寄ることだということを学びました。今でも村人の皆さんの温かい笑顔や共に食事をした光景が脳裏に焼きついています。

GEN の方針で一番感銘を受けたこ

とは、「村人の意見に寄り添い木を植え、育てる」ということです。指導す



るだけでなく、共に考える姿に未来にむけて自律をうながす姿勢を感じました。植樹の背景についての高見先生からのお話や呉城郷でのアンズの木、地球環境林でのマツの木の植樹を通し、植樹や水・緑・土の重要性を認識することは中国だけでなく日本やアジア、世界に必要であると感じました。

日本に帰国したわたしがすべきことは、まずは今回の活動を一人でも多くの人に頭

で理解してもらうこと、さらには実際に現地に足を運び心で感じてもらう人を増やしていくことだと考えています。そして「一人でも多くの方が暮らしやすい世の中にするためには何が必要か」について考えることが社会貢献への一歩であると思いました。

その後の鍋帽山と金山寺

—マツは大きく育っていました—



【道の付け替えで行かなくなりました】

霊丘—渾源の道路は、県境の山を曲がりくねって進む峠道でした。時間もかかりましたし、過って谷底に突っ込む車もあって危険でした。いまから 10 年近く前、山を削り、谷を埋めて、新しい道が付けられ、ずっと安全になり、所要時間も短縮されました。さらに 2 年前には高速道路が完成し、大同—霊丘は 1.5～2 時間で結ばれるようになったのです。

霊丘県の鍋帽山プロジェクトは旧道のすぐ側にありました。以前はツアーもここを訪れ、植えたマツの生育ぶりをみていたのですが、ここを通らなくなったため、最近縁遠くなっていました。この 4 月、ちょっと時間ができたので、前中久行代表と相談して、見に行くことにしました。

運転手の郭さんに話すと、「さあ、行けるかな？ 道が消えているかもしれ

れない」といいます。使わなくなった道路がだめになるのはほんとに早い。旧道との分岐点に「鍋帽山生態公園」の大きな看板が立っていました。これなら大丈夫そう。

【最大のマツは 7 m を超えています】

ここでマツを植えたのは 1995 年から 3 年間です。モンゴリマツ（樟子松）の大きなものは 7 m を超えていました。アブラマツ（油松）も 4 m を超え、樹形がよく、真っ直ぐなものが多いのです。それより前、1993 年に小面積の記念植樹をしたことがありますが、その場所はみつかりませんでした。

鍋帽山のマツは 1～1.5 m に育ったころ、ネズミの被害を受けました。地中の根をネズミにかじられ、葉が真っ赤になって枯れたのです。あいだが抜けてしまいました。口惜しい思いをしたのです。

ところがいまの大きさに育つと、それが気になりません。いい森林に育ちつつあると言っているようです。

緑色地球ネットワーク大同事務所の武春珍所長に報告すると、鍋帽山で大型の国家プロジェクトが進行中で、それは采涼山プロジェクトの成



功で大同県聚楽郷に国家プロジェクトがきたのと同じ事情のようです。呼び水の作用を果たしたのです。

【金山寺のマツも 5 m を超えました】

そのあと久しぶりに大同県金山寺のプロジェクトに行きました。1997 年から 2002 年までマツを植えたところ。采涼山プロジェクトが始まり、さらにその奥にカササギの森がスタートしたため、ツアーが行く機会がなくなりました。

プロジェクトのなかを大同—天鎮の高速道路が通り、2 つに分断されましたが、マツに影響はありません。このモンゴリマツも 5 m を超えています。

活着率は采涼山ほど高くなく、以前はいくらか見劣りしたのですが、ここまで育ってくると、そんなことは気になりません。

前中代表は、「スペースがあったほうが、草がでるし、ほかの樹種も入ることができて、多様性の観点からするといいんですよ」ということです。なるほど！（高見邦雄）

南天門自然植物園ナラ林 2014 年の成長 太くなった 樹高はのびていない

前中 久行 (GEN 代表)

GEN 前中代表が中心となって南天門自然植物園で 2008 年から調査区を設け、樹木の成長調査を続けています。6 年間の推移を報告します。

南天門自然植物園 (霊丘県) では、1999 年に土地の利用権を得て放牧や柴刈りを止めたところ、北西向き斜面ではからも残っていた根株からナラの林が再生してきました。このことからナラが一部の本来の天然林を構成する植物と想定しています。樹木の成長について 2008 年から調査を継続しています。大同の厳しい環境条件での樹木の成長の速度や最終的な最大サイズなどを知るためです。

調査枠内の樹木に番号札をつけて、毎年冬の間幹の太さと樹木の高さを測定しています。植物名としてはモンゴリナラですが、植物園内にはカシワや従来はリョウトウナラとされたものが自生しているので、ナラと大括りしています。

20 m × 20 m の調査区内にある胸高直径 4.5 cm 以上のナラは 58 本で、これらすべての平均を直径と樹高について計算しました (図)。個々の樹木には当然大小があり、2008 年の幹直径と樹高の最小-最大は、4.5 - 11.7 cm と

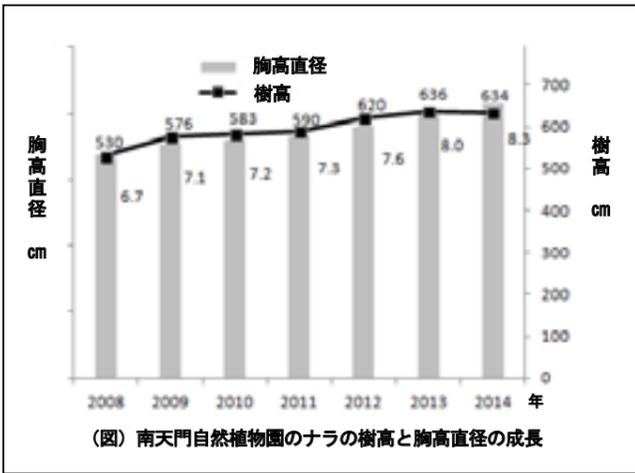
318 - 710 cm で、2014 年では 5.5 - 13.8 cm と 420 - 862 cm でした。

調査を始めた 2008 年春の平均は、直径が 6.7 cm で樹高が 530 cm でした。2014 年春には、8.3 cm と 634 cm になりました。成長量 (1 年間の増加量) を 6 年間で平均すると直径は 0.27 cm / 年、樹高は 17 cm / 年でした。

図中に示した数値から 1 年間の成長量を計算すると 2008、2011、2012 年の成長量は、幹直径と樹高ともにこれより大きく、2009、2010 年は小さくなっています。これは (外国人は信頼できる雨量データにアクセスできません)、現地の人々の印象として雨が多かったという年とそうでない年に対応し

ています。2013 年は雨が多かったといわれています。幹直径の成長量は 0.31 cm / 年で大きくなっています。しかし、樹高成長はなんとマイナスで伸びていません。樹高の上限が近づいているのでしょうか (じつは樹高は風が吹いた時に測ると小さくなるというほどビミョ〜なものです)。

当初の樹木が 6 年間 1 本も枯れていないのも特徴です。日本の森林では少しずつ枯れるのが普通です。樹木間の競合が起こる混み合いにはまだ到達していないとも考えられます。調査が毎回葉のない冬なので、枯れたと判定するのが難しいのです。今年の夏には 1 本ずつ確認したいと思っています。



参加者募集

2014 黄土高原スタディツアー

日本と中国、国内にいて考えているだけではお互いの印象は変わりません。今年の夏は思い切って中国へ行き、大同で木を植えてみませんか。GEN がおこなう緑化協力の現状を肌身で感じるツアーです。

参加費用は燃油特別付加運賃等を含んだ金額です。学生のかたは割引料金で参加できます。この機会にぜひご参加ください。

○日程：8月23日(土)～29日(金)

○費用：一般 159,800 円 (学生割引 20,000 円) (国際航空運賃、中国国内の交通費/宿泊費/食費、燃油特別付加運賃、空港使用料を含みます。年会費 (一般 = 12,000 円、学生 = 3,000 円)、旅券取得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含みません)

※関西空港発着。全日本空輸利用
※東京発着便利用希望のかたはご相談ください。

○訪問先：中国山西省大同市 (北京経由)

○定員：30 名程度

○最少催行人数：12 名

○申込み締切り：7月10日(木) (先着順)

☆参加ご希望のかたはまず GEN 事務所までご連絡ください。申込書類の準備ができましたら (株) マイチケットからお送りします。



黄土高原史話 <68>

亡き愛人の勇武をたたえ

何回か虎の話が続いたが、もう一度だけお許しを。実は虎を入話に、かの烈婦馮太後の愛人の話が本題です。

さて、今の御河にあたる如渾水は、白登山の手前で二条に分れ、うち一水は西に向かうが、

また南して虎圏の東を遡る。魏 [北魏] の太平真君五年、これを成りて以て虎を牢む。季秋の月、聖上 [太武帝]、御園の上より親 [観] て、虎士に勅して力をその下に効さしむ。事は、奔戎の生きながら制するに同じ。すなはち『詩』のいはゆる「祖 [禮] 楊して虎を暴にし、公の所に献ず」るなり。ゆえに魏に『捍虎図』あり。」

しばしば引いた『水経注』巻 13 の一節で、ここでは第 3 代太武帝の太平真君 5 年 (444) に虎圏を造ったとしてい

谷口 義介 (GEN 会員)

るが、第 2 代明元帝の永興 4 年 (412) の条に、

春二月癸未、虎圏に登りて虎を射る。南平公・長孫嵩らに布帛を賜ふこと各々差あり。

とみえるから、虎圏はすでに明元帝のとき設けられていたらしい。それより 32 年後、太武帝はこれを修築したので

それとはともかく、明元帝は臣下に命じて武技を競わせ、太武帝は近衛の勇士をして虎を倒させたというから、虎圏における晩秋と二月の行事は、虎狩りのミニチュア版というべきか。牧畜狩猟民だった鮮卑拓跋の伝統に沿ったものとみなしてよい。もっとも著者鄭道元は、『穆天子伝』の「奔戎」の話や『詩経』鄭風・大叔于田の一句を引いて、中華古典の文脈の中にこの行事

を位置づけているが……。

しかし、「捍虎図」の制作については、そうした北魏の伝統とは別に、特殊具体的なキッカケがあったらしい。ちなみに「捍虎」とば虎を捍ぐという意味だ。

ここで第 4 代文成帝の未亡人にして、おそらく第 5 代献文帝が譲り受けたい馮太后 (本シリーズ <58> 参照) に、ご登場願おう。

承明元年 (476)、馮太后、献文帝を殺す。『魏書』巻 13 「皇后列伝」によると、

太后、行 (品行) 正しからず。内に李弈を寵す。顕祖 [献文帝]、事に因りてこれを誅す。太后、意を得ず。顕祖暴に崩す。時に太后のこれを為せしと言ふ。

つまり、愛人を誅された腹いせに献文帝を殺した、と巷では噂したというのだ。

かくして帝亡き後、みずから政事を執った彼女の目にとまったのが王叔なる人物。『魏書』巻 93 「恩倖」によれば、「姿貌偉麗」というから、マッチョなイケ面といったところか。このとき太后、35 歳の女盛り (イヤな言い方だが)、「愛龍日に隆し」という。そして 2 年後の太和 2 年 (478)、事件が起きた。

高祖 [孝文帝] および文明太后 [馮氏]、百僚と諸方の客を率いて虎圏に臨む。逸虎あり、門の閣道を登りて、ほとんど御座に至る。左右の侍御みな驚駭す。

観ひとり戟を執りてこれを禦ぐ。虎すなはち退去す。ゆえに親任転た重し。

それより後、「王叔、臥内に入りし、数年にして便ち宰輔となり、賞賚の財帛、千万億を以て計ふ」(皇后列伝) と。太和 4 年 (480)、尚書令・中山王・鎮東大將軍を兼ねた。

ところが王叔、48 歳のとき、あっけなく病死。太后、哀慟すること甚だしく、廟を起こして碑を立てた。そして、

叔を褒へて、その捍虎の状を諸殿に図かしめ、高允に命じてこれが讚を為らしむ。

と。すなわち、上記『水経注』のいう「捍虎図」とは、馮太后が愛人の勇武を称えるべく、特別に描かせたものなのだ。

参加者募集

万博記念公園の森を見に行こう

風にそよぐ木々の緑がまぶしい季節となりました。万博記念公園で自然観察を楽しみませんか。

万博記念公園では、日本万博博覧会跡地にこの地域本来の自然植生を再現し、「自立した森」として再生させるための取り組みを続けています。都市部の人工地盤のうえに森林を再生させる取り組みは、国内外においても過去に例のない貴重なものです。

今回は万博記念公園の森づくりに最初から関わっておられる森本幸裕さんに案内していただきます。ぜひご参加ください。

○日時：5月31日(土) 10時～15時ごろ

○場所：万博記念公園 (吹田市千里万博公園 1)

○集合：万博記念公園中央口 (大阪モノレール「万博記念公園前」駅

より徒歩すぐ)

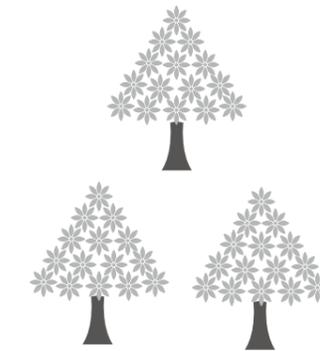
○案内：森本幸裕さん (京都学園大学教授)

○参加費：700 円 (保険料を含む) 万博記念公園入場料が別途必要 (大人 250 円、小中学生 70 円)

○定員：30 名

○申込み：5月28日までに GEN 事務局へ

※小雨実施





一名取・潮除須賀松一
再生植樹式

- 震災によって失われた東北の海岸林再生にむけての植樹祭です。
- 日時：5月22日(木) 9時30分～12時
(9時15分現地集合)
 - 場所：宮城県名取市下増田海岸『海岸防災林復旧事業整備』整備地区
 - 内容：クロマツ苗1,000本の植樹
 - 参加費：無料(昼食・飲み物は各自ご持参ください。)
 - 主催：日本野球機構 林野庁 国土緑化推進機構宮城県緑化推進委員会
 - 協力：ゆりりん愛護会
 - 申し込み：団体名(個人名)、参加人数、連絡先を電話またはメールでご連絡ください。tel. 090-7066-6014(大橋)
e-mail n-ohashi@swan.ocn.ne.jp

第120回咲くや塾
中国黄土高原での
草の根緑化活動22年の歩み

- 咲くやこの花館の「咲くや塾」でGENの活動紹介をします。
- 日時：6月21日(土) 13時30分～15時

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

- 会場：咲くやこの花館2階
- 定員：70名
- 参加費：無料(別途入館料が必要)
- 講師：高見邦雄氏(GEN事務局長)
- 問合せ・申込み：5月21日(水) 10時から電話で先着順。咲くやこの花館(〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2-163 tel. 06-6912-0055)

万博記念公園
生きもの見わけ方
ボランティア養成講座

- 万博記念公園内の生きものや植物の知識が深まる講座です。
- 日程：6月8日「トンボ」/6月15日「水生生物」/8月3日「セミ・チョウ」/9月21日「シダ」/10月5日「キノコ」/11月9日「樹木」/12月7日「野鳥」
 - 時間：9時30分～12時30分ごろ
 - 場所：万博記念公園内自然文化園
 - 定員：30名(高校生以上、先着順)
 - 受講料：3,000円(7回通し) 別途入園料250円/回が必要
 - 問合せ・主催・申込み：ハガキ、fax、e-mail、電話で氏名、年齢、性別、住所、電話番号、「万博記念公園・生きもの見

わけ方ボランティア養成講座参加希望」を下記までご連絡ください。公益社団法人 大阪自然環境保全協会 〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202 tel 06-6242-8720 fax 06-6881-8103 e-mail office@nature.or.jp

小夏とたまねぎの
ご案内

土佐の初夏の味、小夏とたまねぎはいかがですか。

◎土佐小夏

A	5kg	4,000円
B	3kg	2,500円
C	家庭用 5kg	3,000円

◎おいしい玉葱(低農薬、有機肥料)

白たまねぎ	5kg	1,900円
-------	-----	--------

※送料別途 関東860円 関西650円(20kgまで)

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GENの紹介』とひとことそえてください。

【注文先】田中農園 田中隆一さん

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 (tel./fax.0887-29-2500 e-mail tanakan3@cronos.ocn.ne.jp)